

遠景近景

すっかり秋らしくなり、各地でイベントが花盛り。特に、十五、十六日は、ぶらくり丁界隈で各種団体が様々な取り組みを披露していました。アークの下でよさこい踊り、子どもの絵の展示、京橋近くの遊歩道沿いで二胡演奏やフラダンス、雑賀橋はサルサにベリータダンス、このほか、映画や陶芸教室、写真展……。

盛りだくさんの中で残念だったのは、主催者が異なるため、同じころ同じような場所で同様のイベントをしている

にもかかわらず、連携がほとんど見られなかったこと。顕著だったのは、和歌山城からぶらくり丁周辺を巡るウォーキングです。和歌山市主催のウォークと、市民提案事業のオーブンカフェが取り組むウォークが同日、ほぼ同ルートで別々に開催されていました。

市は市で、カフェはカフェで個々に案を練り、独自イベントとして実施したのですから問題はないのですが、「協

力できていれば」との気持ちは残ります。要は、情報が一元管理されず、広報もバラバラ。しかも、主催者は目前のイベントを成功させるため精一杯で、他の団体がどんな動きをしているか、また、その連携するにどうすれば良いかといったところまで考える余裕がないことが背景にあります。

こんな中、十七日にインターネット上に開設された「わかやまイベントボード」(http://wakayama-shiminiku.jp/enboard/)は不具合を解消する起爆剤となるかも知れません。これは、個人や団体、企業が主催イベントを書き込み情報発信できるサイト。いまは事務局が収集した情報を入力している程度ですが、主催者自ら発信するようになるれば、イベントにかける思いや内容をより詳しく紹介できます。

ボード自体は単に情報発信するための道具ですが、事務局は「入力する団体が増えれば、同じように活動している

情報共有し連携を

他団体の情報を得ることができ、連携のきっかけになる」と期待をかけています。ただ、スタートしたばかりですので、浸透するまで根気よく書き込みを続けられるかが課題。「情報を流しても、まったく反響がない」と発信を止めてしまえば、理想の形には近づけません。

晴天に恵まれた十六日、ぶらくり丁は大勢の人で賑わっていました。すぐ近くでイベントを実施している主催者同士が協力し合う関係をつくってゆけば、きっと楽しい街ができるはず。 (小倉)